

| | |
|---|--|
| 「若手研究者支援」国際学会発表 | |
| Reliability and Validity of The Japanese Version of Gender Queer Identity Scale | |
| 氏名 出水 友理亜 | 所属 人間発達科学専攻 博士後期課程 3年 |
| 期間 | 2024年9月25日～2024年9月30日 |
| 学会・分科会名 | WPATH 28TH SCIENTIFIC SYMPOSIUM |
| 場所 | EPIC SANA LISBOA HOTEL, Lisbon, Portugal |
| 発表者名、発表形式 | Yuria Demizu, Live Poster |

内容報告

1. 本学会発表の意義・目的

ノンバイナリー・ジェンダーキア (NBGQ) とは、トランスジェンダーのサブカテゴリに属し、性別二元論に囚われない多様な性自認を持つ人々を指す。近年、国外では若年層を中心に NBGQ 人口が増加しており (James et al., 2016), 日本でも同様の傾向がみられる (dentsu Japan, 2023)。このことから、NBGQ に関する包括的な理解を深める研究が国内外で求められている。

NBGQ は非性別二元的な性自認を包括する概念で、流動的な性自認をもつ人も含まれる。そのため、NBGQ に関する研究を進める上で、こうした性自認の多様性を正確に反映できる信頼性のある日本語版尺度が必要である。しかし現在、日本語における NBGQ アイデンティティを測定する心理尺度は存在しない。そこで本研究では、NBGQ アイデンティティの程度を測定する Gender Queer Identity Scale (McGuire et al., 2018) を邦訳し、Japanese Version of Gender queer identity scale (GQI-J) の信頼性及び妥当性を検討した。

日本では非性別二元論に基づく性自認に関する研究は依然として少なく、また NBGQ と類似した意味を持つ「X ジェンダー」という日本特有の概念も存在する。国外の知見を得ることで、日本の非性別二元論に基づく性自認への理解を深め、研究の発展に大きく寄与すると考えられること、また国際的に活躍できる女性研究者となるための一環としてトランスジェンダーに関する国際学会である WPATH 28TH SCIENTIFIC SYMPOSIUM にて本研究のポスター発表を行った。

2. 発表で得られた成果

本学会に参加し、国外の研究者とコミュニケーションを取ることで、国外の NBGQ やトランスジェンダーに関する研究動向や実態、支援法について把握することができた。これにより、国内外で NBGQ やトランスジェンダーの研究や実態、支援法を比較検討することができ、日本における NBGQ や自身の研究内容に対する理解を深める重要な視点を獲得することができた。また学会での研究発表を通じて、トランスジェンダーや NBGQ を研究する研究者の暗黙知的な知見や考え方を直接確認できたことも大きな成果であった。これにより、論文や文献だけでは得られない視点からの理解を得て、NBGQ やトランスジェンダーに関する国内外の理解をさらに深めることができた。

3. 今後の展望

発表者は博士論文において、自閉スペクトラム症 (ASD) と性別違和 (GD) との関係に着目し、そのメカニズム及び ASD と GD が併存する「ダブルマイノリティ」への心理支援に関する研究を行っている。NBGQ は、トランスジェンダーの中でも増加傾向にあり、また NBGQ と ASD との関連も指摘されていることから (Stagg & Vincent, 2019), NBGQ と ASD の関係についても新たな知見が求められている。そのため今後は本研究で開発した尺度を使用して、NBGQ と ASD に関する更なる調査を実施する予定である。また今後は、本発表内容を本学会で得られた知見と合わせて博士論文の 1 つの章とし、本学会を主催した WPATH が刊行している「The International Journal of Transgenderism」にも投稿予定である。

参考文献

- dentsu Japan (2023). LGBTQ+調査 2023 No.1 LGBTQ+をめぐる人々の意識は？～最新調査レポート Retrieved September 5, 2024, from <https://dentsu-ho.com/articles/8721>
- James, S., Herman, J., Keisling, M., Mottet, L., & Anafi, M. (2016). *The report of the 2015 US transgender survey*. Washington, DC: National Center for Transgender Equality.
- McGuire, J. K., Beek, T. F., Catalpa, J. M., & Steensma, T. D. (2018). The Genderqueer Identity (GQI) Scale: Measurement and validation of four distinct subscales with trans and LGBQ clinical and community samples in two countries. *The International Journal of Transgenderism*, 20(2-3), 289-304. <https://doi.org/10.1080/15532739.2018.1460735>
- Stagg, S. D., & Vincent, J. (2019). Autistic traits in individuals self-defining as transgender or nonbinary. *European Psychiatry*, 61, 17-22.

でみず ゆりあ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻

- ・英文タイトル Reliability And Validity Of The Japanese Version Of Gender Queer Identity Scale
- ・英文氏名 Yuria Demizu
- ・英文発表者名 Yuria Demizu, Keiichiro Ishimaru

指導教員のコメント

ポルトガルで開催された WPATH 28TH SCIENTIFIC SYMPOSIUM への参加は、出水さんの研究キャリアにとって非常に有意義な経験だったと評価します。国際的な場でのライブポスター発表を通じて、世界中の研究者と NBGQ やトランスジェンダーに関する知見を直接意見交換できたことは、大きな成果です。

この経験は、日本における NBGQ 研究の文脈を国際的な視点から捉え直す貴重な機会でした。国際学会での経験を活かし、自閉スペクトラム症 (ASD) と NBGQ の関連性という重要なテーマに取り組む姿勢を高く評価します。今回の経験を博士論文や国際ジャーナルへの投稿に生かし、さらなる研究の発展につなげてください。

(基幹研究院人間科学系・石丸径一郎教授)